（様式３－１）　　調査研究活動記録票（研究研修費：研修会等開催用）

NO.1　　嬉野市議会議員　　増 田 朝 子

開催月日	平成 31年 1 月 9 日（水） ～ 11日（金）
開催時間	平成 31年 1月 9日（木）(13：00 ～ 14：10)
開催場所	滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
主催者	全国市町村国際文化研究所
研修会等の名称	**切れ目のない子育て支援　～フィンランドのネウボラ～** フィンランド社会のライフスタイル　～家族と子育ての現状～
講師等の氏名等	堀内 都喜子氏 （フィンランド大使館　広報部 プロジェクトコーディネーター）
内容・結果等	**〇フィンランドの概況** 人口：550万人　首都：ヘルシンキ （人口：59万6000人） 付加価値税 24% **〇さまざまな指標で、世界の上位に** ・幸福度ランキング1位 ・男女格差指数ランキング（2017：3位、2018：4位 日本：110位） ・子どもの貧困の低い国 世界第2位（4%） 女性の地方議員（36%） ・地方の委員会（48%）40%クオータ制 **共働きの子育てを支える仕組み①** ・母親休暇、親休暇、父親休暇 ・子どもが3歳まで求職可能で元のポジションに復職できる ・様々な手当、在宅保育手当、子ども手当などがある ・フィンランドの保育… 6歳以下の子ども全数の68%が保育利用（1歳未満：0.7%） ・ワークライフバランス…有給休暇（100%）、家族やプライベートうを重視、在宅勤務（28%） **共働きの子育てを支える仕組み②** ・配偶者控除なし、子単位課税 ・給食無料、大学院まで授業料無料 ・老親の介護の義務はなし フィンランドの出産…初めから（毎回の検診）父親も一緒に通い、出産・子どもネウボラワーキンググループに支援してもらいながら、安心して出産子育てができる 育児パッケージの支給…育児パッケージ170ユーロ（約2万円）が所得制限なしにもらえる 共通認識（・人口が少ない→ ひとりもとり残してはけない ・予防的支援が大切 ・子どもは未来の大切な納税者、社会で育てる 【まとめと感想】フィンランド大使館の堀内氏の話はわかりやすく、とても軽快な話し方で興味深く受講できた。1917年にロシア帝国から独立し、小さい国ながらも幸福度ランキング1位である。さまざまな指標でも世界の上位に位置している。独立後から国民の共通認識として、人口が少ないのでひとりも取り残してはいけない。子どもは未来の大切な納税者、社会で育てるとある。本当に子どもたちが国という社会に守られていることが実感できた講義だった。

上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額
	旅費規程に基づき算出された旅費		29,450
	研修費・食費・活動費		10,500
	振込手数料		540
			40,490

（様式３－１）　　調査研究活動記録票（研究研修費：研修会等開催用）

NO.2　　嬉野市議会議員　　増 田 朝 子

開催月日	平成 31年 1 月 9 日（水） ～ 11日（金）
開催時間	平成 31 年 1 月 9 日（木）（14：25 ～ 17：00）
開催場所	滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
主催者	全国市町村国際文化研究所
研修会等の名称	**切れ目のない子育て支援　　～フィンランドのネウボラ～** フィンランドの子育て家族支援とネウボラ～日本への示唆～
講師等の氏名等	高橋 睦子氏 （ 吉備国際大学大学院社会福祉学研修科 研究科長・教授 ）
内容・結果等	**フィンランドの子育て家族支援の特徴** 社会保障（各種の休業と手当）、地域保健・医療・幼児教育、学校教育の連動 妊娠初期から就学前までネウボラに全員が個別に継続的につながる **フィンランドの子ども・子育て観** 社会的合意・・・・赤ちゃん（0歳児）は自宅で親と過ごす　子どもが親と一緒にいられる時間を尊重・重視 赤ちゃんのペースに大人が合わせて過ごす時間 カイロス…時刻を表す 体感時間（主観的な時間） 今・ここで！　クロノス…時間を表す 赤ちゃんの「安定的な愛着」の意義についての共通理解 「子どもの声は騒音ではない」 **ネウボラのエッセンス** ①妊娠初期から就学前までの一貫性・連続性 ②全員・個別に繋がる ③母子と家族全体 ④ネウボラスタッフの専門性 ・ネウボラとは「人の繋がり／かかわり」 ・ネウボラとは公営の「地域の実家」 ・（問題のある家族だけでなく）みんな／すべての子育て家族が行くところ 間口は広く、敷居は低く 親になる準備（子育てへの助走）を支援する（自分の子育てについて・親としての自己イメージ形成 妊娠・出産子育ての正確な基礎情報、社会保障・支援サービスの情報） ネウボラには…「出産ネウボラ」「子どもネウボラ」「家族ネウボラ」 があり、「対話と信頼関係」を重視 【まとめと感想】今回、３日間通して講義いただいた、高橋氏の講義は資料でもわかりやすい言葉で記述されていて、ネウボラに関しては多くの著書も出版され、第１人者であるにも関わらず、控えめな印象を受け、楽しく受講できた。「すべての母親への個別で直接の助言と、必要に応じた支援」の考え方は今日のネウボラに引き継がれている。それが「対話と信頼関係」を重視し子ども家族にとって優しい快適なスペースとしてデザインされている。（妊婦９９．７％、出生時99.5％がネウボラに繋がっている） 日本においても「切れ目ない支援」と言われて久しいが、このネウボラ（地域の実家）として定着すれば、多くのお母さんたちが安心して出産、子育てができると改めて感じ、この考え方を広めていきたいと思う。

	経費の内容	支払先	金額
上記活動に要した経費	旅費規程に基づき算出された旅費		NO.1に同じ
	研修費・食費・活動費		
	振込手数料		

（様式３－１）　　調査研究活動記録票（研究研修費：研修会等開催用）

NO.3　　嬉野市議会議員　　増 田 朝 子

開催月日	平成 31年 1 月 9 日（水） ～ 11日（金）
開催時間	平成 31年 1月 10 日（木）(9：25 ～ 10：35)
開催場所	滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
主催者	全国市町村国際文化研究所
研修会等の名称	**切れ目のない子育て支援　　～フィンランドのネウボラ～** 国の施策に関する行政説明
講師等の氏名等	中根 恵美子氏 （厚生労働省子ども家庭局母子保健課 母子保健指導専門官 ）
内容・結果等	**母子保健行政のあゆみ①** 保健所法の制定・母子保護法の制定（1937年） 妊産婦手帳制度（現、母子健康手帳）の開始 児童福祉法の制定 （1947年） 予防接種法の制定・施行 母子保健法制定・施行（1948年） **母子保健行政のあゆみ②** 2000年 「健やか親子21」 2001～2010年）の制定　　2015年 「健やか親子（第2次）」（2015～2024年）の策定 **「健やか親子（第2次）」**…すべての子どもが健やかに育つ社会 （重点課題）①育てにくさを感じる親に寄り添う支援 ②妊娠期からの児童虐待雄牛対策 （基礎課題A）切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策（基礎課題B）学童期・思春期から成人期に向けた保健対策 （基礎課題C）子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり **平成31年度母子保健対策関係予算案（26,639百万円→27,597百万円）** ①子育て世代包括支援センターの全国展開等（3,803百万円） ②生涯を通じた女性の健康支援事業（263百万円） ③産婦健康診査事業（1,268百万円） ④不妊治療への助成（1,376百万円） ⑤母子保健情報の利活用にかかるシステム改修1,251百万円） ⑥新生児聴覚検査の体制整備事業（49百万円） ⑦子どもの心の診療ネットワーク事業（117百万円） ※ 産後ケア事業／産前・産後サポート事業 【まとめと感想】 これまで高齢者の医療・福祉に係る国家予算に比べ子育て支援に関する予算がわずかだったが、2012年子ども子育て支援法の制定以降、重視されてきたように感じる。このように国も平成３１年度の予算案を打ち出しているので、嬉野市においも内容を検討し、該当する予算があれば積極的に取り組んで欲しいと思う。 今回、国の情報を具体的に聴くことができ、参考になった。

上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額
	旅費規程に基づき算出された旅費		NO.1に同じ
	研修費・食費・活動費		
	振込手数料		

（様式３－１）　　調査研究活動記録票（研究研修費：研修会等開催用）

NO.4　　嬉野市議会議員　　増　田　朝　子

開催月日	平成　31年　1 月　9　日（水）　～　11日（金）
開催時間	平成　31年　1月 10日（木）（10：50　～　12：00）
開催場所	滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
主催者	全国市町村国際文化研究所
研修会等の名称	切れ目のない子育て支援　　～フィンランドのネウボラ～ 事例紹介①　富山市における切れ目ない子育て支援体制について 事例紹介②　妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を目指して
講師等の氏名等	事例①　若松　裕子氏　（富山県富山市こども家庭部　育成健康課　副主幹：母子保健課係長） 事例②　藤原　美輪氏　（兵庫県稲美町健康福祉部　子育て世代包括支援担当課長：：保健師）
内容・結果等	**事例①富山市**…7市町村の合併（H.17年　4月1日）人口:41,625人（H.30年9月末）　出生数：3,142人（H.29 年） **平成27年度**…切れ目ない子育て体制調査事業として①ニーズ調査　②有識者との懇話会　（現状と課題、産後ケア応援室（平成29年開設）、顔の見える関係つくり、地域の人材育成、正しい情報を伝える仕組みづくりなど） ③シンポジウム（フィンランドのネウボラに学ぶ）　10月には子育て世代包括支援センターを市内7つの保健センターに設置 **平成28年度**…①企業向けのシンポジウム　②小・中学生とのふれあい体験　③妊娠・出産を考えるフォーラム（H.30～） 平成29年度…ケアプラン作成を開始（母子健康手帳交付時） 平成30年度…①ベイビーボックスプレゼント事業　②ママ手帳　③ネウボラ研究事業（フィンランドへ視察:5名） ④まちぐるみ子育て応援事業（まちぐるみ子育て応援教室を市内10地区で実施） **事例②兵庫県稲美町**…人口：31,404人　年間出生数：221人　合計特殊出生率：1.36 子育て世代包括支援センター（すくすく子育てサポートセンター）…平成28年7月1日開設 活動目標…①妊産婦が妊娠・出産期を安心して過ごせるよう支援する　②子育てに関する知識・技術が得られるよう支援する　③関係機関との連携システムにより早期から予防ン支援する 業務…①すべての親子への妊娠期からの育児支援、産後ケア等　②循環相談（親子のひろば、保育所など） ③中学3年生の親性準備性学習　④機関関係連携によるハイリスクアプローチとして（養育支援ネット：WHOなど） 特定妊婦への早期支援…ワンストップはワンチャンスと心得て面接にのぞむ（応対は独りで対応はチームで） 養育者の特徴…半開放的で刺激や対人緊張の少ない場所で過ごせるj間を保障する、やって見せ、気づいてもらい、いっしょにやり、ほめて喜び合う 【感想】 富山市では切れ目ない子育て体制調査事業を初めとして、当初から計画的に進められ、年々新しい事業が盛り込まれている。平成30年度にはベイビーボックスプレゼント事業やネウボラ研究事業も導入されている。稲美町は特定妊婦への早期支援をワンストップはワンチャンスと心得て面接にのぞんでいるとのこと。 両自治体とも一人でも多くのお母さんが安心して妊娠し、出産、子育てできる支援の取り込み方の事例であり、先進自治体の積極的な取り組みはとても参考になった。

上記活動に要した経費	経　費　の　内　容	支　払　先	金額
	旅費規程に基づき算出された旅費		NO.1に同じ
	研修費・食費・活動費		
	振込手数料		

（様式３－１）　　調査研究活動記録票（研究研修費：研修会等開催用）

NO.5　　嬉野市議会議員　　増　田　朝　子

開催月日	平成　31年　1 月　9　日（水）　～　11日（金）
開催時間	平成　31年　1月 9日（木）(13:00　～　14:10)
開催場所	滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
主催者	全国市町村国際文化研究所
研修会等の名称	切れ目のない子育て支援　　～フィンランドのネウボラ～ 子育て世代包括支援センターの理念と課題
講師等の氏名等	高橋　睦子氏　（　吉備国際大学大学院社会福祉学研修科　研究科長・教授　）
内容・結果等	理念とは…「近未来に到達しようとする状態・姿」を示すもの **子育て世代包括支援センターの理念** ①利用者の目線（支援者の「自己内省」が必要）　②支援の継続性と整合性（利用者にとって理的な継続性」が安心感の基本」）　③“切れ目ない”支援「一つながり」「人つながり」（人と人とが「心つながることを意味する）　④子育て家族（家庭は赤ちゃんにとっての安全基地、「母子」のみではなく「家族」全体・「家族関係」親たちのカップル関係など） 留意点 ・専門領域ごとに分断されるものではない ・母子健康手帳交付時の全婦面接は大切 …子育てへの入り口だけでは不十分「次はいつ？」（産休入りなど） ・全員を把握しつつ、個を見る（個は多様） …検査だけでなく「どうフォローするか「くらし」をささえる生活モデルが大切 ・利用者からみて切れ目なく継続的に支える ・信頼関係…「ご本人」が蚊帳の外に取り残されていないか 一時期の状況だけでの決めつけ・断定はしない ・「話すこと」「聴くこと」を区別できているか …言外のメッセージ（表情、視線、動作、姿勢などもコミュニケーションに含まれる ・「対話」への糸口…相手が語りやすい言葉かけ（選もッ明後・業界用語は伝わらない） ・対話から信頼へ …心配ごとを先送りしない（①心配ごとの程度の把握　相手の反応の予測　③伝えた後のりかえり 【まとめと感想】 子育て世代包括支援センターの設置に当たり、**「利用者の目線」**を再三告げられた。支援や介入よりも「関係性」が大事。状況は経過によって変わることを十分に把握しておくことが大事。子育て世代包括支援センター―が目指す「切れ目ない支援」とは利用者から見て、切れ目なく継続的に支えることだと共感した。

上記活動に要した経費	経　費　の　内　容	支 払 先	金額
	旅費規程に基づき算出された旅費		NO.1に同じ
	研修費・食費・活動費		
	振込手数料		

（様式３－１）　　調査研究活動記録票（研究研修費：研修会等開催用）

NO.6　　嬉野市議会議員　　増 田 朝 子

開催月日	平成 31年 1 月 9 日（水） ～ 11日（金）
開催時間	平成 31年 1月 10日（金）(9：25 ～ 14：10)
開催場所	滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
主催者	全国市町村国際文化研究所
研修会等の名称	切れ目のない子育て支援　　～フィンランドのネウボラ～ ～グループ全体討論～　（発表準備）（発表・講評）
講師等の氏名等	高橋 睦子氏 （ 吉備国際大学大学院社会福祉学研修科 研究科長・教授 ）
内容・結果等	**課題** 1、テーマに関する現状と課題 2、目標に向けての見通しと、取り組みの進め方 3、短期的・直近1～2年での現実的な改善事項と方策 4、中長期での改善策・対応策 **テーマ** A班 “保健師“が見える地域をつくるには？ B班 フェイス・to・フェイスのつながりを大切に～切れ目のない子育て支援体制～ C班 福岡県筑後市（未開設）をモデルに、目ざす「子育て世代包括支援センター」の姿を語る D班 「相談者がいないお母さんへの支援」 E班 すべての親子への妊娠期からの育児支援 F班 “切れ目ない”支援の提供 G班 つながろう！継続した親子支援～継続支援の体制づくり～ 【感想その1】 「ネウボラ」について詳しく勉強したいと思っていたので、行政向けの研修ではあったが、議員も対象だったこともあり、参加した。今回、募集30名に対し、全国から56名（行政職員、議員〈6名〉）の参加があり、すでに子育て包括支援センターを開設した自治体、これから開設の自治体ともこのネウボラへの関心の高さが伺えた。 【感想その2】 2日目より一班7名構成の7班に分かれ、課題に対してのグループ演習を行なった。テーマ決めに時間がかかったが、色々な意見を出し合いながら、まとめることができた。発表では各班、特徴のある内容であり、課題として行政内の縦割りや関係機関の設置場所の問題があった。また、改善事項として、ネウボラ課の設置や将来パパママになる子ども（中学生）に対し、妊婦体験や赤ちゃんふれあい教室、命の授業の実施、子育てアプリの活用などが発表された。嬉野市においてこれから子育て世代包括センター設置が予定されている。今回研修したことを参考に提案していきたいと思う。今後も、機会あれば実務の研修を受けたいと思う。

上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額
	旅費規程に基づき算出された旅費		NO.1に同じ
	研修費・食費・活動費		
	振込手数料		